

梨本宮伊都子妃の

おひな
さま

代々受け継がれる
おひなさま



梨本宮伊都子妃の

おひな
さま

代々受け継がれる
おひなさま



ごあいさつ

徴古館では、例年侯爵鍋島家の明治・大正・昭和期の歴代夫人が愛しんだおひなさまを展示しています。侯爵家にふさわしい豪華さと品格を兼ね備えた往時の雛祭りを再現した大雛壇は、毎年好評を博しています。

今年は、鍋島家から嫁いだ梨本宮伊都子妃をはじめとした、ご親戚で代々大切に受け継がれてきた鍋島家ゆかりのおひなさまが特別展観できる運びとなりました。

伊都子は、明治十五年二月二日、駐伊特命全権公使の旧佐賀藩主鍋島直大・栄子夫妻の娘としてイタリアの都で誕生し、明治三十三年梨本宮守正王に嫁して宮妃となりました。

伊都子所用のおひなさまには、初代永徳斎の渾身の作である次郎左衛門雛（世田谷美術館所蔵）や葵紋付雛道具類一式など、祖母・筆姫（十代藩主鍋島直正継室）から譲り渡された多数の品、梨本宮妃となられたのち皇室より拝領された御所人形や毛植人形、伊都子自身が収集したお人形などが残されています。これらとあわせて、伊都子の長女方子が李王家に嫁ぐ際に持参した家紋付雛道具一式や、二女規子、孫の樹勢子のおひなさまなど、伊都子を中心としたご家族の雛飾りもこの度展覧いたします。樹勢子のおひなさまの中には、縁戚にあたる鍋島家から贈られた御祝い品も多くご覧いただけます。

本展でご紹介するおひなさまは、**廣橋家**はじめ、ご親戚の皆様で手から手へ代々大切に守り、受け継がれてきたもので、今回ご厚意により徴古館での展観が叶いました。これら初公開の品々を通じて、梨本宮家・**廣橋家**をはじめとした家々と鍋島家とのゆかりを感じて頂ければ幸いです。

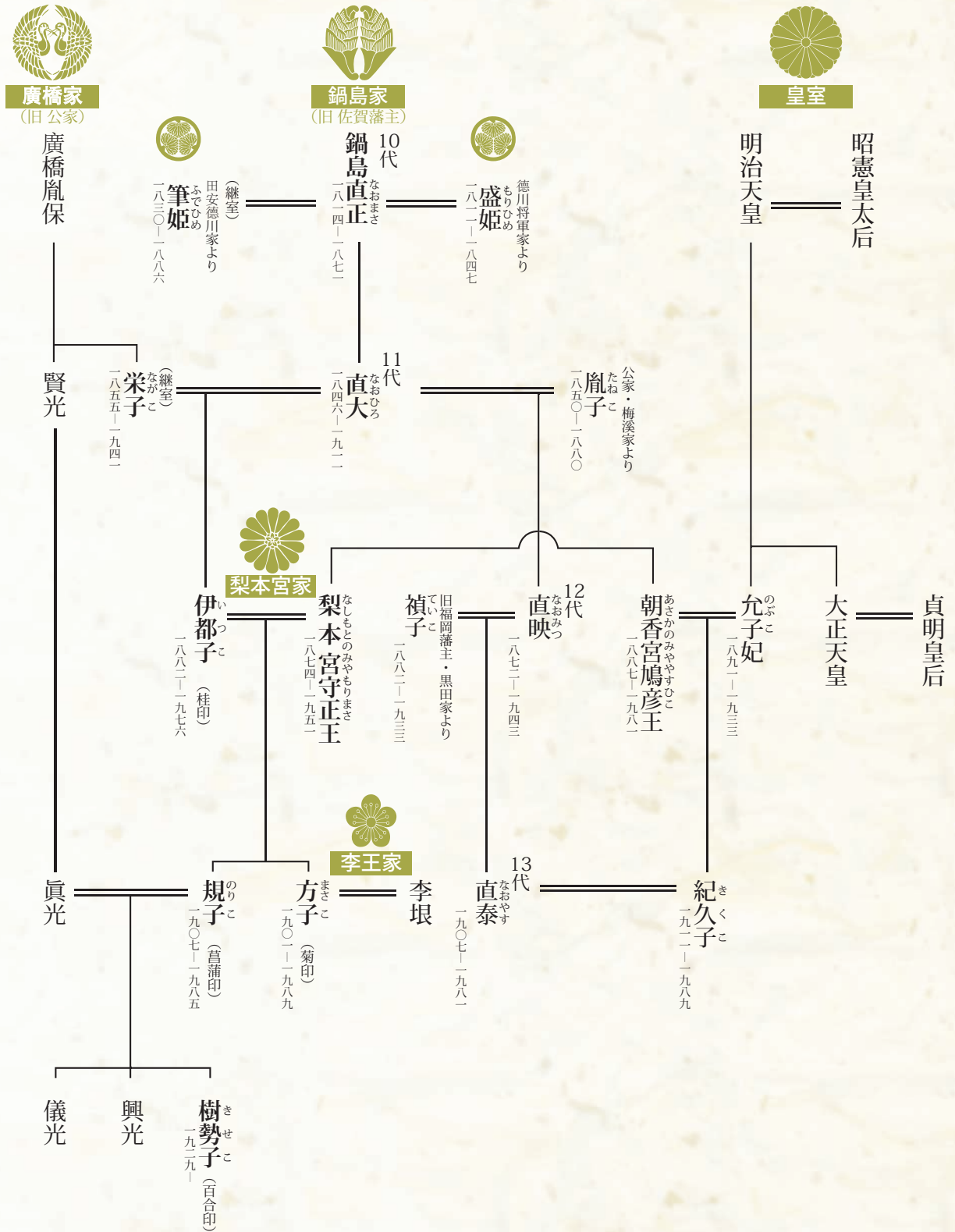
平成二十六年二月十五日

公益財団法人 鍋島報効会

目次

ごあいさつ	3
開催にあたって	4
目次	
梨本宮家での雛飾りの様子	
関係略系図	8
概要	9
伊都子さまのおひなさま	15
方子さまのおひなさま	53
規子さまのおひなさま	65
樹勢子さまのおひなさま	75

「梨本宮伊都子妃のおひなさま」関係略系図



祖母から孫へ

— 葵紋付雛道具と次郎左衛門雛

梨本宮伊都子妃が愛しんだおひなさまの収納箱には、今でも直筆の書付が残されている。

「◎印のは、昔私の御祖母様から御ゆづりいただいた御ひな様に、一寸ちよつと今はない品。小さいどれも上等なり。大きいのは次郎左衛門雛とて有名なもの。時代ものなり。そのつもりで取扱ふ事。拝領品もあり。」

この書付によって、世田谷美術館所蔵の次郎左衛門雛、廣橋家所蔵の葵紋付雛道具や江戸時代の雛人形など、◎印の付けられる箱のものは、伊都子が祖母・筆姫から譲り受けたものと判断される。伊都子の雛道具には昭憲皇太后からの拝領品も含まれているが、これも御道具に添えられる書付によってわかることである。

筆まめだったという伊都子。誰から譲られたものなのか、いつ頂いたものなのか、どのような契機で手元に来たのか。歳月を重ね、人の手を介するうちに欠落

しがちな御道具の由緒を、ひとつひとつ書き残してくださっていることで私たちは辿ることができる。

なお、筆姫から譲り受け、嫁ぎ先の梨本宮家へ持参された雛人形・雛道具は、伊都子が記し願ったとおり、縁戚の廣橋家によって現在も大切に守り継がれている。



「上」筆姫より譲られた葵紋付唐草文蒔絵化粧道具のうち手鏡 「下」筆姫

ふでひめ **筆姫** 田安德川家11代 徳川齊匡 十九女
天保元年～明治19年(1830～1886)

嘉永2年(1849)、田安德川家より10代佐賀藩主・鍋島直正に継室として嫁ぐ。明治7年(1874)からの11代鍋島直大・胤子夫妻英国留学中、孫の朗子・直映の面倒を見るなど明治前期の鍋島家を年長者として支えた。

なしもののみやい つ こ
梨本宮伊都子

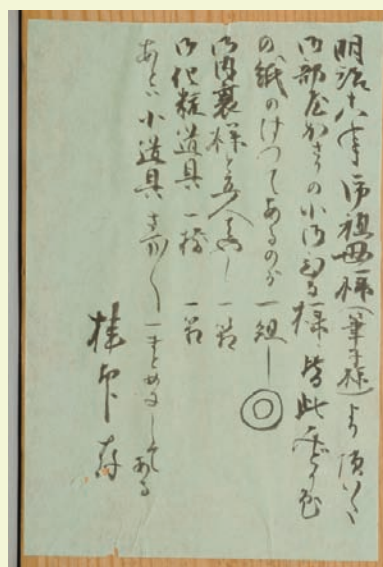
鍋島家11代 鍋島直大 二女
明治15年～昭和51年(1882～1976)

駐伊特命全権公使としてローマの日本公使館に赴任していた11代鍋島直大・栄子(継室 廣橋胤保五女)夫妻の娘として明治15年(1882)に生まれ、出生地にちなみ「伊都子」と命名された。明治33年(1900)に梨本宮守正王に嫁ぎ宮妃となられる。二子をもうけ、李王家に嫁した方子女王、伯爵廣橋家に嫁した規子女王がいる。祖母は、田安德川家より嫁ぎ10代藩主鍋島直正継室となった筆姫。



有職雛（直衣姿）
男雛 高 15.0 女雛 高 11.0

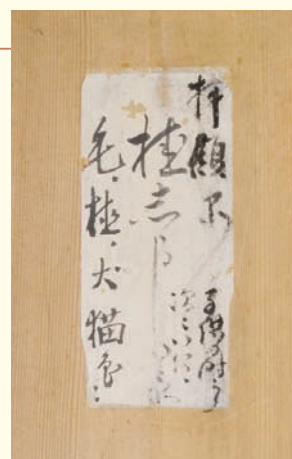
明治十八年御祖母様（筆子様）より頂いた
御部屋かさりの小御ひな様 皆此みどり色
の紙のはつてあるのが一組——◎
御内裏様と五人はやし 一箱
御化粧道具一揃 一箱
あとハ小道具さま——一まとめにしてある
桂印存



「極内証
御しとね五人揃」
「御内裏様 古いもの
五人はやし附属品入」



毛植人形
猫 高 20.5
雄鶏 総高 7.0

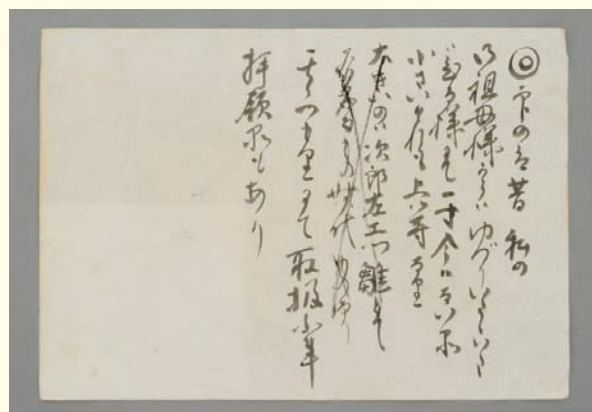


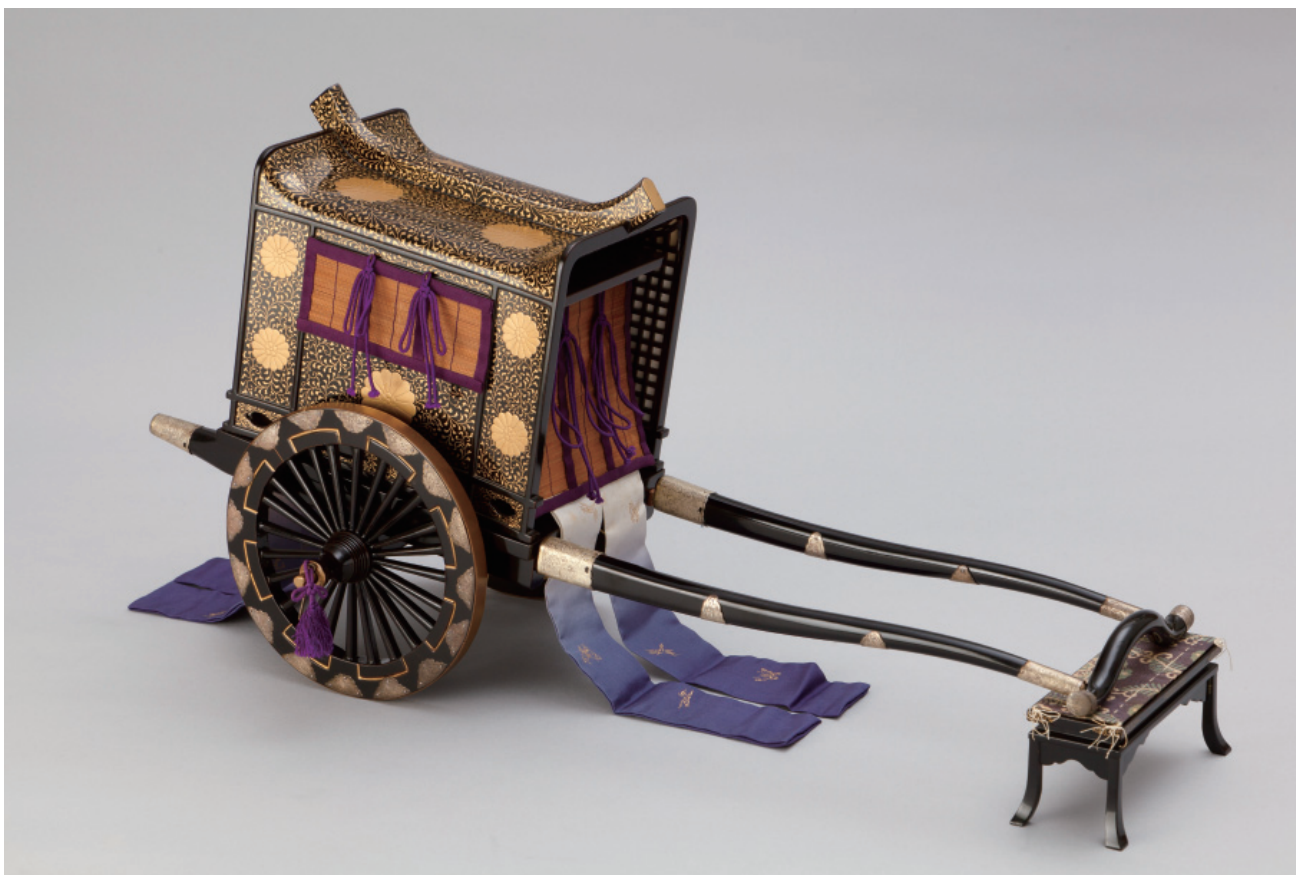
拝領品
桂志るし
毛植 犬 猫色々
子供の時から
次々いた
いた品



御所人形
鳥担ぎ(左) 高 9.8

◎印のは昔私の
御祖母様から御ゆづりいただいた
御ひな様にて、一寸今ハない品
小さいどれも上等なり
大きいのは次郎左衛門雛として
有名なもの時代ものなり
其つもりにて取扱ふ事
拝領品もあり





御所車

田中弥一郎 作 全長 63.0 車輪径 18.5



「京都四條
柳馬場東
田中製品」





紙雛（立雛）

大木平蔵 作 男雛 高 35.5 女雛 高 29.0

原田光枝は親子の父梨本宮守正
王の生母。

明治四十三年四月

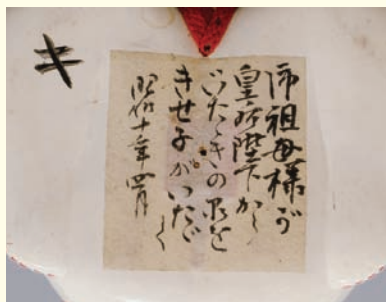
「規宮殿下江原田光枝より
献上」





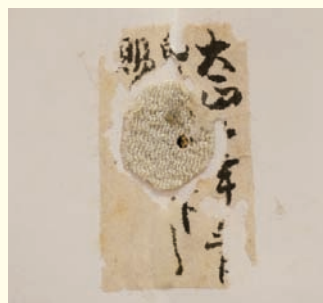
御所人形

亀持ち 高 16.5 烏帽子持ち 高 9.0 鯛持ち 高 17.5



「御祖母様が
皇后陛下から
御いたゞきの品を
きせ子がいたゞく
昭和十年四月」

御所人形(亀持ち)裏貼紙



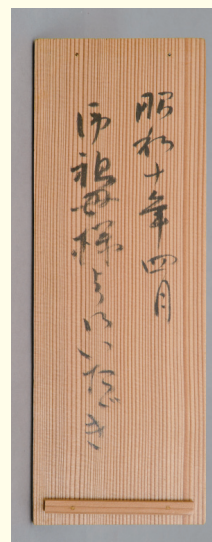
「大正■年三月
皇(后陛下)下より
賜■」

御所人形(鯉持ち)裏貼紙



御所人形

鼓持ち(最右) 高 7.5





方子と規子
(明治42年10月17日撮影)



二人の娘と伊都子
左から、規子、伊都子、方子
(明治41年5月撮影)



廣橋家三姉弟
左から、興光、萬喜子、
樹勢子
(明治41年5月撮影)



方子



鍋島家一族集合写真 梨本宮夫妻(前列中央)を囲んで(昭和3年撮影)

謝辞

本展の開催にあたり、左記の関係機関、関係各位にお世話になりました。
記して謝意を表します。（敬称略）

世田谷区立世田谷美術館

廣橋 興光

廣橋 静枝

廣橋 興子

廣橋 由子

中村樹勢子

松下樹美子

廣橋 儀光

遠藤 望

村上 由美

新井 榛名

永淵 匡治

永松 亨

一〇代佐賀藩主・鍋島直正公生誕二〇〇年記念

梨本宮伊都子妃のおひなさま

―代々受け継がれるおひなさま―

編集・発行 公益財団法人鍋島報効会

〒八四〇・〇八三一

佐賀市松原二丁目五・二三

TEL. 〇九五二・二三・四二〇〇

URL <http://www.nabeshima.or.jp>

発行年月日 平成二十六年二月十五日

印刷 刷 (株)佐賀印刷社

本書の全部または一部を無断にて転載複製することを禁じます。

©二〇一四 公益財団法人鍋島報効会

